
PHP

5 時間目

ネスト (=入れ子)

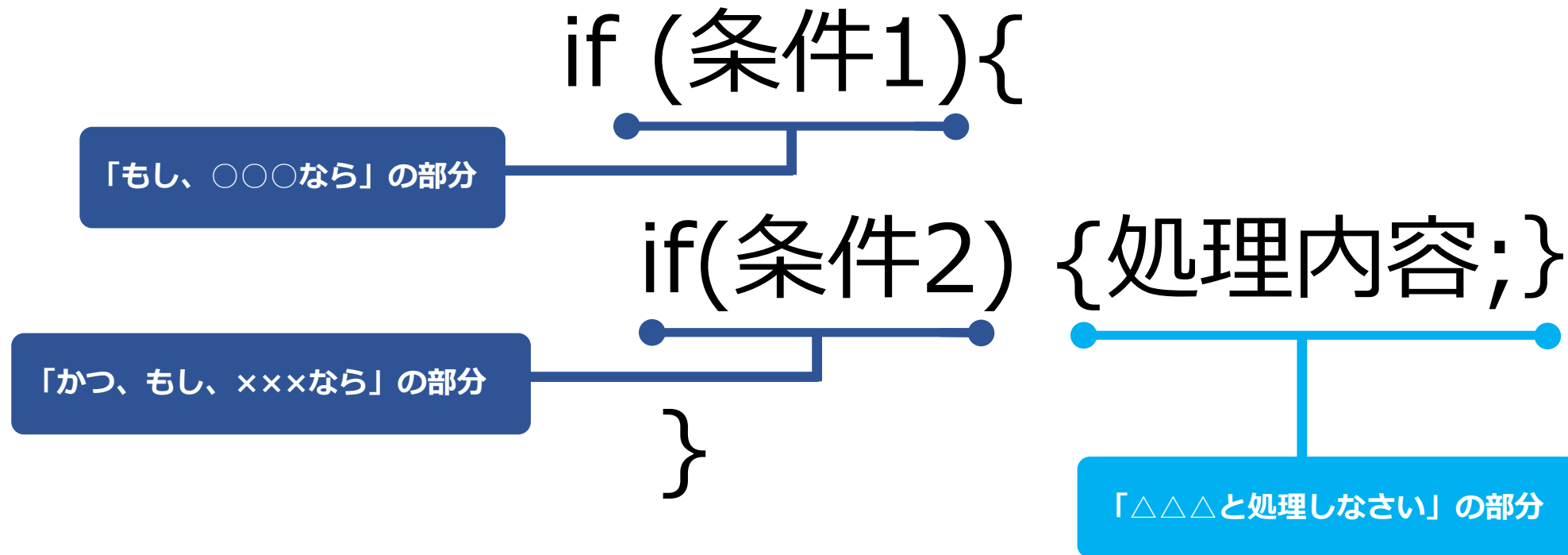
ネストとは、「if文の中に、if文を書くこと」

つまり・・・

もし○○○なら、
かつ、もし×××なら、
△△△と処理しなさい

ということ

ネスト (=入れ子) の書き方



例) もし、"ある数"(\$a)が10より大きい場合で
かつ、"ある数"(\$a)が30未満の場合、Aと表示する。

index.php(PHPファイル)

```
<?php  
$a = 20;  
  
if($a > 10){  
    if($a < 30){  
        echo "A";  
    }  
}  
  
?>
```

← → ↺ 🏠

A

2つの条件に該当する(TRUE)なのでAと表示

例) もし、"ある数"(\$a)が10より大きい場合で
かつ、"ある数"(\$a)が30未満の場合、Aと表示する。

index.php(PHPファイル)

```
<?php  
  
$a = 50;  
  
if($a > 10){  
    if($a < 30){  
        echo "A";  
    }  
  
?>
```

2つの条件に該当しない(FALSE)ので
何も表示されない

例) もし、"ある数"(\$a)が10以下の場合で
かつ、"ある数"(\$a)が5以上の場合、Aと表示する。

index.php(PHPファイル)

```
<?php  
$a = 7;  
  
if($a <= 10){  
    if($a >= 5){  
        echo "A";  
    }  
}  
  
?>
```

← → ↺ 🏠

A

2つの条件に該当する(TRUE)なのでAと表示

例) もし、"ある数"(\$a)が10以下の場合で
かつ、"ある数"(\$a)が5以上の場合、Aと表示する。

index.php(PHPファイル)

```
<?php  
  
$a = 2;  
  
if($a <= 10){  
    if($a >= 5){  
        echo "A";  
    }  
  
?>
```

2つの条件に該当しない(FALSE)ので
何も表示されない

if文 + else(又は elseif) + ネスト の組み合わせ

if文 と else(又は elseif) と ネストを
組み合わせることで
様々な条件下で様々な処理が可能

例) もし、“ある数”(\$age)が20未満なら、未成年と表示。
そうでない場合は、成人と表示する。

index.php(PHPファイル)

```
<?php  
  
$age = 18;  
  
if($age < 20){  
    echo “未成年”;}  
else{  
    echo “成人”;}  
  
?>
```

未成年

18歳なので未成年と表示

例) もし、“ある数”(\$age)が20未満なら、未成年と表示。
そうでない場合は、成人と表示する。

index.php(PHPファイル)

```
<?php  
  
$age = 25;  
  
if($age < 20){  
    echo “未成年”;}  
else{  
    echo “成人”;}  
  
?>
```

成人

25歳なので成人と表示

例) もし、“ある数”(\$age)が20未満なら、未成年と表示。
そうでない場合で、80より大きければ、高齢者と表示。
それ以外の場合は、成人と表示する。

index.php(PHPファイル)

```
<?php  
  
$age = 40;  
  
if($age < 20){  
    echo “未成年”;  
}elseif($age > 80){  
    echo “高齢者”;  
}else{  
    echo “成人”;  
}  
  
?>
```

成人

40歳なので成人と表示

解説

下記のように『20より大きく かつ 80未満』という条件を2番目に指定し、最後のelseで高齢者を記述しても、前ページと同じ意味になります。

例) もし、“ある数”(\$age)が20未満なら、未成年と表示。
そうでない場合で、20以上で80以下であれば、成人と表示。
それ以外の場合は、高齢者と表示する。

index.php(PHPファイル)

```
<?php  
  
$age = 40;  
  
if($age < 20){  
    echo "未成年";  
}elseif($age >= 20 && $age <= 80){  
    echo "成人";  
}else{  
    echo "高齢者";  
}  
  
?>
```

成人

40歳なので成人と表示

解説 下記のように『剰余(%)』条件を指定することで偶数と奇数の表示が出来ます。

index.php(PHPファイル)

```
<?php  
$a =5;  
  
if($a % 2 ==0){  
    echo "偶数";}  
else{echo "奇数";}  
  
?>
```

%は 剰余を意味しています。
 $2 \div 5 = 2 \text{ 余り } 1$
つまり、
 $\$a \% 2 == 0$ にならない。
よって、奇数となる。

奇数

例) もし、“ある数”(\$kokugo)が70以上で、かつ“ある数”(\$suugaku)が70以上の場合は、合格と表示。
そうでない場合で、不合格と表示する。

index.php(PHPファイル)

```
<?php

$kokugo = 80;
$suugaku = 65;

if( $kokugo >= 70 ){
    if( $suugaku >= 70 ){
        echo "合格";
    }
    else{ echo "不合格";
    }
}

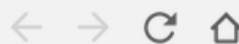
?>
```

不合格

例) もし、“ある数”(\$a)が1より大きい場合で、さらに“ある数”(\$a)が2と等しい時Aと表示する。
そうでない場合で、“ある数”(\$a)が3と等しい時、Bと表示する。
それ以外の場合は、全てCと表示する。

index.php(PHPファイル)

```
<?php  
  
$a = 2;  
if( $a > 1 ){  
    if( $a == 2 ){  
        echo "A";  
    }  
    elseif( $a == 3 ){  
        echo "B";  
    }  
    else{  
        echo "C";  
    }  
}  
  
?>
```



A